



審判委員会だより

発行日:4月22日 第3号
発行:(一財)長野県剣道連盟
審判委員会

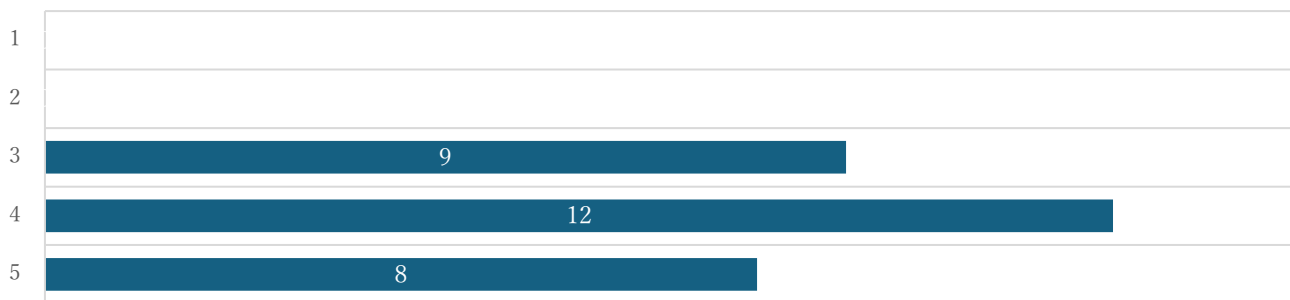
令和8年4月5日(日)、長野市真島総合スポーツアリーナにおいて「国民スポーツ大会長野県代表選手選考会」が開催されました。

審判委員会では、当日に審判員として従事された 29 名の方に「審判員自己評価シート」を配布し、審判員に必要なとされる7項目について5段階の自己評価をしていただきました。

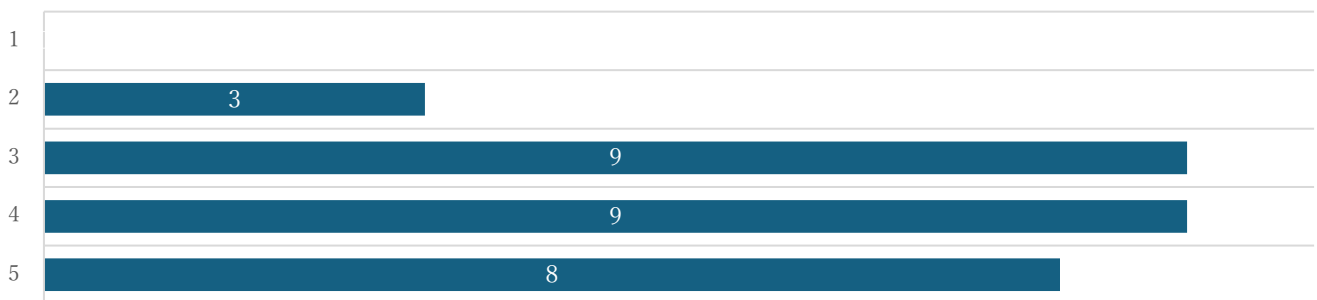
また、各試合場の審判主任6名に審判員の動作や所作について気づいた点を「審判主任記録用紙」にまとめていただきました。

今回は、その結果を取りまとめましたので紹介いたします。

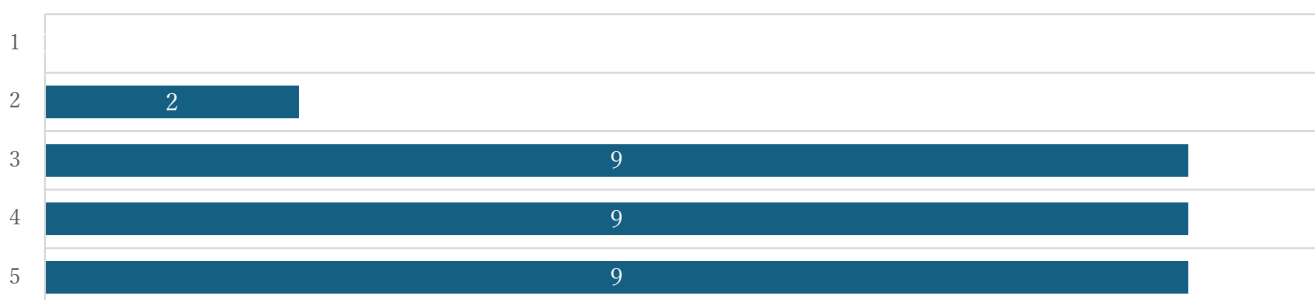
1 規則・細則を理解して望めた



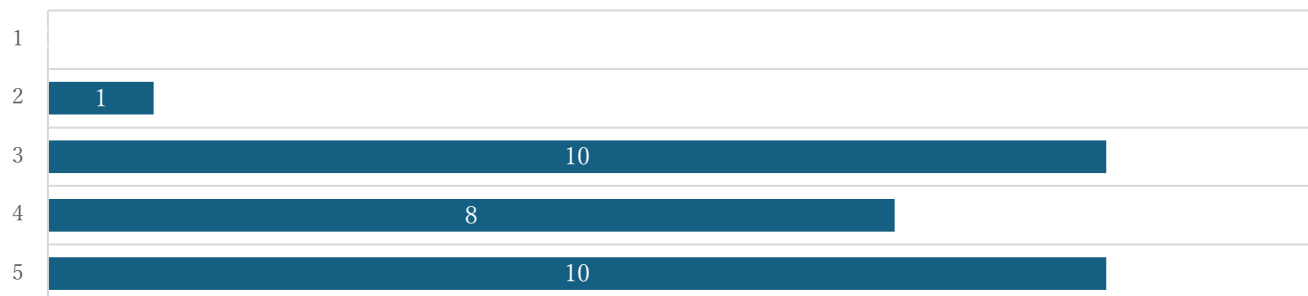
2 有効打突の見極めができた



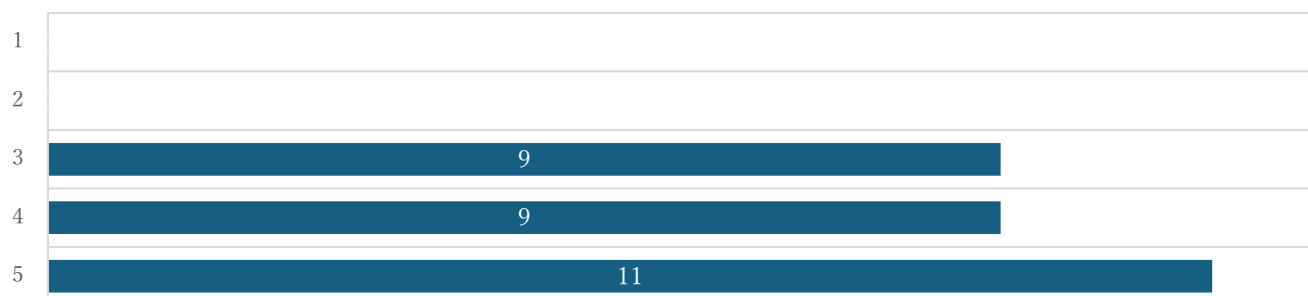
3 反則行為の見極めが正しくできた



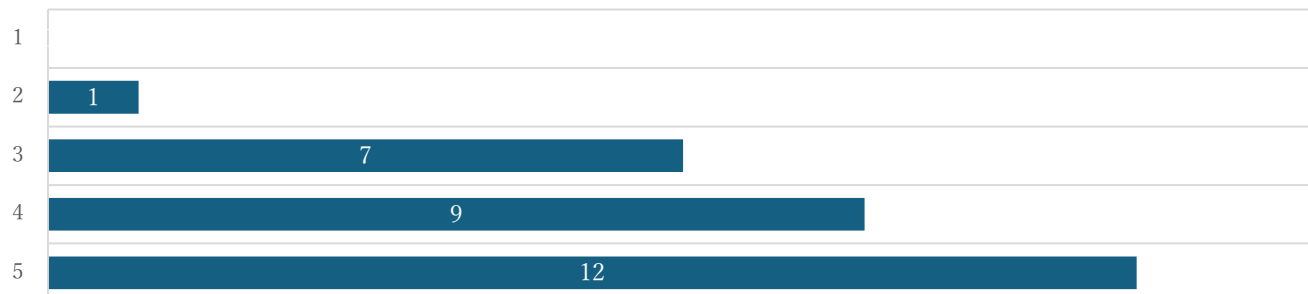
4 位置取りが素早くできた



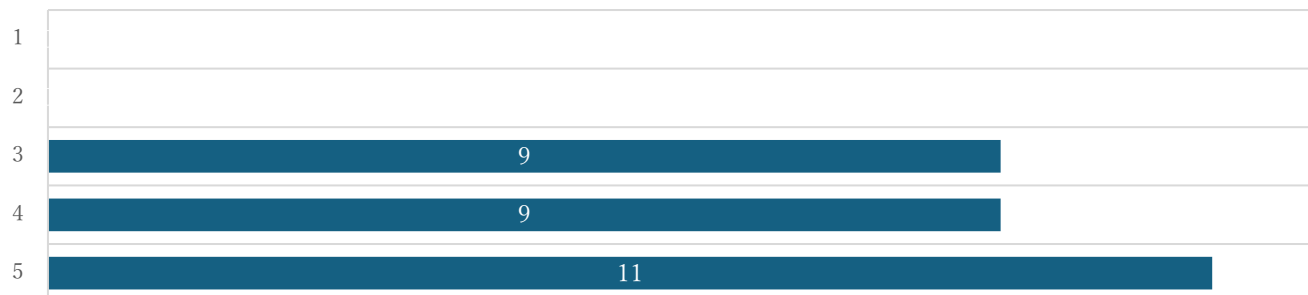
5 正しい姿勢でできた（旗の上げ方等）



6 所作が正しくできた



7 控え席等で正しい姿勢ができた



【審判主任記録用紙のまとめ】

審判主任から審判員に対して次のような注意がありました。

- 1 位置取りが遅れる場面があった。

副審は予測して動く。直線的な動きで切り込んでいくといった動作が必要。

- 2 反則 2 回で 1 本として、試合の勝敗が決定した試合があった。

これにより、それ以降の試合は正々堂々と積極的な攻防による試合が行われた。

- 3 公正を害する行為（公明正大に試合をしない行為等）の反則を見落とした。

- 4 引き技について見極めが揃わない。（全般的に旗が重め）

- 5 境界線を常に意識し、必要のない場合は境界線の外に出ないように心掛ける。

- 6 位置取りが遅れるため、有効打突の表示が揃わない。

当日、審判に従事された先生方におかれましては、反則 2 回を適用する等、勇気のいる審判をしていただきありがとうございました。

今後も審判委員会は、審判員の自己評価などを皆様にお知らせすることにより審判技能向上に努めて参ります。